



みぬまニュース

「見沼スケッチ会」第2回水彩画展 2月3日(火)～2月8日(日)

2月3日から大宮氷川神社の宮近い「氷川の杜文化館」で、第二回水彩画展を開催、出品者31人により作品60点を展示、6日間の会期中約870人の来館者をお迎えして無事終わることができました。作品の主題は見沼の田園風景や寺社・旧坂東家・民家園などでした。春(桜・田んぼに映る斜面林)、夏(睡蓮・古代蓮)、秋(紅葉・稲穂)、冬(木立・雪景色)の四季にわたり、多様でまた個性豊かな作品が多くみられ、来館者からも「穏やかで爽やか」という感想をいただきました。「見沼スケッチ会」は、旧坂東家「見沼くらしっく館」を拠点に水彩画の勉強を続けておりますが、これからも貴重な見沼の原風景を描き続けて参りたいと思います。

—原則、毎月第1火曜日— (主宰 八木一郎)



集合写真

第67回 見沼塾 『初午のしみづがり作り』 2月6日(金)

「初午のしみづがり作り」の参加者は26名でした。初午とはお稲荷様の縁日(今年は2月6日)で、農家では農作物の豊穰を、商家では商売繁盛を願うものです。初午の行事食の呼び名は地域により多少異なりますが、「シミヅカリ・シモツカリ・スミツカリ・シモツカリ」などと呼ばれています。



しみづがり作り

片柳地区では「しみづがり」と呼び、一般的に大根を鬼おろしで摺り、節分のときに残しておいた大豆の皮をむき一緒に入れて醤油味

で煮込みます。この後、^{わら}藁を使ってワラズトの中に「しみづがり」を少々入れ、氏神様やお稲荷様などに供えます。(旧坂東家住宅見沼くらしっく館)

第68回 見沼塾 『和紙を漉く・つくる』 3月7日(土)、8日(日)

和紙の伝統工芸士を講師に招き、2日間かけての講座を23人(延べ48人)が参加して実施しました。



和紙を漉く

初日は用意した^{こうぞ}楮の繊維を木槌でたたき細かくし、トロロアオイのぬめりと良くかき混ぜて和紙を漉きました。一人3枚の製作で、それぞれ厚みが違い、押し葉を間に漉きこむなど手作りの面白さと難しさを体験しました。

2日目は、乾燥させた和紙を加工する作業で、主にランチョンマットと下敷きを製作しました。和紙の風合いを活かしたアイデアいっぱいの作品ができあがり、今夜から早速使おうという方が多かったです。

子どもも大人も、和紙のよさを十分に感じられた2日間でした。(浦和くらしの博物館民家園)

見沼たんぼの四季 『田植え』

4月末から1ヶ月ほどの間、見沼のあちこちの田んぼで田植えが行われます。植えられたばかりの苗は、張られた水の中でなんとも頼りなげですが、間もなくしっかりと根をおろし、青々とした葉をのぼしてぐんぐんと成長していきます。



田植え

毎年、^{くし}櫛の歯が欠けるように、見沼の田んぼも一枚一枚と減っていますが、この時期の水の張られた田んぼの風情は、春の日差しと相俟ってなんともいえないすがすがしさを感じさせてくれます。すぐ近くに、こんな風景が待っています。散歩の折にでも、ちょっと足をのぼしてみませんか。(高橋)

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

知られざる春の花みどころ

大宮体育館のサクラ3姉妹

大宮体育館構内（芝川左岸・見沼区大和田町1丁目）には、3月下旬から4月上旬にかけて、エドヒガンの変種シダレザクラ（紅色の花）とソメイヨシノ（薄紅色の花・ほんのり桜色）とオオシマザクラ（白色の花）が次々と開花します。

因みに、ソメイヨシノは江戸末期にエドヒガンとオオシマザクラが交配して出来た園芸種です。ソメイヨシノとシダレザクラはお花見の桜としてポピュラーです。オオシマザクラの葉は桜餅に使います。他のサクラと違って葉に毛がないので、舌触りが良いからです。



大宮体育館のサクラ3姉妹

見沼公園の華麗なサトザクラ

見沼グリーンセンター・市民の森の北西方にある神明社北に隣接する見沼公園（見沼代用水西縁右岸・北区土呂町2丁目）には4月中・下旬、紅八重や薄緑の華やかな花の咲くサトザクラの仲間が見られます。オオシマザクラとヤマザクラなどの交配種を改良して出来た品種です。小さな公園ですので見逃してしまいそうです。

田圃に群がる春の七草

田圃などで2月から5月にかけて見られる春の七草は、野草5種・野菜2種です。

「芹なづな御行はくべら仏座すずなすずしろこれぞ七草」（鎌倉時代の作『河海抄』）

昔の名前	今の名前
セリ	セリ
ナズナ	ナズナ
ゴギョウ	ハハコグサ
ハクベラ	ハコベ
ホトケノザ	コオニタビラコ
スズナ	カブ
スズシロ	ダイコン

親から子へと伝えられて来た摘み草で、食べごろは2月～4月、花の見ごろは3月～5月です。セリの開花は夏ですが、他6種の開花は3月～5月です。

春の七草を見つけやすい場所は、見沼1丁目の田圃（芝川右岸・北区、東武野田線と市営大宮球場の間）、上山口新田の田圃（芝川左岸・見沼区、円蔵院下）などです。

中山神社境内林のウラシマソウ

大宮の氷川神社と浦和の氷川女体神社を結ぶ一直線上に位置する中山神社（見沼区中川）の境内林には、4月～5月にウラシマソウの群落が見事な花を咲かせます。

仏炎包という頭巾のような花冠から長く伸びたひものようなものを浦島太郎の釣竿の糸に見立ててつけた名前です。

加田屋のノアザミとコウゾリナとノイバラ

加田屋2丁目に広がる田圃の東側にある土手の斜面（見沼代用水東縁右岸・見沼区）には、5月中旬～6月にカラフルな野の花が咲き乱れます。ノアザミ（紅紫色）とコウゾリナ（黄色）とノイバラ（白色）が勝手気ままに自生しています。



ノアザミ

夏の高原の花として人気のあるノアザミは、さいたま市ではここだけに群生しています。

茎に触ると刺状のかたい毛があり、カミソリにたとえて名づけられたのが髪剃菜、コウゾリとはカミソリの訛ったものです。

ノイバラはバラの香水の原料として優れものです。（NPO 法人自然観察さいたまフレンド 小野達二）

見沼たんぼの植物

一 大和田緑地公園の希少植物 一

大和田緑地公園は、大宮台地大和田支台西縁にある大宮体育館南側に位置する斜面林を主体とする2ヘクタール弱の自然緑地です。1996年（平成8年）から私たちみどり愛護会が保全作業を継続しています。かつては真っ暗な森で、バイクなど粗大ゴミや犬猫の死骸が散乱していました。それが私たちのボランティア活動によって、見沼最大級の斜面林が美しい自然景観を復元し、2006年（平成18年）末、さいたま市の特別緑地保全地区第1号に指定されました。

木漏れ日のさす林床には、様々の希少植物が自然復元してきました。春咲く絶滅危惧種は、アマナ・キンラン・ギンラン・シュンラン・ヤマブキソウ・ワニグチソウの6種です。私たちのいう春咲く注目種は、ウラシマソウ・ジュウニヒトエ・チゴユリ・ユキザサが見ものです。植えたものではなく、公有地に勝手に生えている山野草ということで、持ち去られるようになりました。やむなく、一定の区域に柵を設け保護しています。

4月29日には、私たち NPO 法人自然観察さい

たまフレンドの『第206回見沼ぶらり・おもしろ自然観察』の中で、保護柵内をガイドいたします。（NPO 法人自然観察さいたまフレンド 小野達二）



キンラン



ヤマブキソウ

見沼たんぼの動物

一 食物連鎖と天敵の利用 一

春の到来と共に、ツバメが飛び、カエルやヘビが冬眠からさめ、活動を開始します。

動物が活動を開始するには、そのエサとなる若葉・花の蜜や花粉・昆虫の発生が不可欠です。

そして、動物は自分の子供を育てるために、積極的に多量の若葉や蜜や花粉や昆虫等を求め捕獲するために動き回ります。

見沼たんぼには、イネを食べるツマグロヨコバイ、イナゴ、ウンカ、イネゾウムシ、ニカメイガ等がいて、又、それらを食べるナガコガネグモ、ハナグモ、ジガバチ、シオカラトンボ、ツバメ、セッカ、アマガエル等がいます。さらにこれらを食べるモズ、コサギ、シマヘビ等がいます。これが食物を通して食うか食われるかの関係で、1つの食物連鎖になっているのです。

ところが農薬散布により、昆虫を除去すると、それまでそれらを食料として生きてきた鳥や動物は生きられなくなってしまうこととなります。

農薬を使うことをやめ、天敵を利用した有機農業にしたらどうでしょう。

即ち、農作物を荒らす害虫を食べてくれる鳥や昆虫や動物（これを天敵という）を積極的に利用した方が良いと考えられます。

天敵は次の3つに分類されます

1. 捕食昆虫・鳥・動物（幼虫や成虫を補食する）

（例）カエル、ヘビ、トカゲ、ハチ、クモ、カマキリ、テントウムシ、マイマイカブリ等の仲間、野鳥（ツバメ、スズメ、ムクドリ、シジュウカラ、ヒヨドリ、オナガ、モズ等）

2. 寄生昆虫（幼虫に生み付けられたこの昆虫は幼虫を食べ尽くし育つ）

（例）ジガバチ、マユバチ、ヒマバチ等の仲間

3. 寄生菌（動物の体内に入り食べ荒らし死なせる）

（例）カビ、ダニの仲間

たんぼの害虫として挙げられるノミ、シラミ、ハエ、カ、チョウ、バッタ、ガ、カメムシ、カイガラムシ等の仲間を天敵を利用し、捕獲し、駆除すれば、自然保護ができると思います。

農薬による手法は、天敵まで殺してしまい、生き残った害虫の倍増や農薬汚染による人体への影響等の弊害があります。そのため、農薬利用はできるだけ避けるべきだと考えます。（NPO 法人自然観察さいたまフレンド 長澤義則）

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「木傘神社」(緑区・大崎)

大崎公園の北西に位置する旧大崎村の村社。地域一帯は為永翁により開拓された「見沼たんぼ」の一部を占める。しかし地盤が軟かくまた狭かったので、永く荒れたままになっていたが、昭和に入り畑地転換工事を行って豊かな耕地に変わった。

日本武尊が東征の際、雹ひょうにあって大木の下によけたが、更に激しくなったため除雹の祈禱をするとたちまち止んだ。そこで神社を造り、雹をしのいだ木にちなんで木傘神社と命名したといわれる。



「見沼通船堀公園・竹林」

東浦和駅近く、見沼代用水西縁と結ぶ通船堀に沿って竹林が整備されており、静かな散策ができる。桜の季節もまた佳く、多くの人々で賑わう。



新釈見沼民話

見沼の竜の語り草

宮田正治

見沼のいかり草

見沼にまつわる話が尽きないのは、見沼の魅力が尽きないのと同じことじゃったと、わしは、このごろつくづく思うのじゃ。

—なぜ見沼は、かほどの魅力に満ちているのか？

こう思うのは、まんざらわしだけではあるまい。どうかな？

さて、今回は、イカリソウに因む話を聞かせよう。暗くて悲しい、語るもつらい話じゃが、五月になるとよく思い出すのでう。

知っておろうな。船のいかりの形をした『いかり草』じゃ。昔は、見沼のほとりの至る所に生えておった草じゃ

が、今はめつたに見られない貴重な野草となってしまうた。残念なことじゃが、時の移り変わりであり仕方あるまいな。

あれは何百年前のことであつたらうか。この武蔵の国足立の郡へ、出雲の国から大勢の人々がやってきた時のことじゃから、かれこれ千五百年も前にならうかのう。

その当時、大宮台地一帯は、国造(くにのみやつこ)となつた笠原直使主(かさはらのあたのおみ)という男が治めており、氷川の社を中心としてたいへんな勢いで開発が進められていたのじゃ。何しろ、幾筋もの川に囲まれ、見沼を始めとする多くの沼に恵まれたこの台地は、木々は茂り、あらゆる農作物の宝庫であつたのじゃ。

大和の朝廷の屯倉(みやげ)のあつた中川村のあたりには、米蔵が立ち並び、出雲の神のオオナムチノミコトが厳かに祀られ、村々、人々は活気に満ちておつた。

この地の村長(むらおさ)には小夜という気立てのやさしい、美しい娘がおつた。多くの人々にかわいがられ、のびのびと育っていたが、国造家に認められて、何年か後には嫁ぐという縁談が、親達のみで決められていたのじゃつた。

そんな折、出雲から二百人余の移住者がやってきた。

高句麗人や百濟人たちの移住と同じように、未開地の開拓のため、この頃は集団移住が大和朝廷によって手軽に命じられていた時代じゃつた。

この出雲人の中に、簸川の大洋という青年がいた。国を出るとき、庭隅に群生する白いイカリソウを持ってきていた。土地では昔から、強壯剤として用いられてきた薬草だったからじゃ。

大洋は駐屯地が決まると、それをすぐに地に植え、発芽、開花を待った。この花がよほど好きだったのじゃろうな。



イカリソウ

一方、小夜も野の花が大好きであり、中でも五月ご

ろ咲くイカリソウを好んだ。

このあたりのイカリソウは、四月下旬から五月にかけて、道端や明るい雑木林で、船の碇(いかり)に似た赤紫の花を咲かせるものじゃ。形が面白く色合いが落ち着いていて、甘い香りをただよわせるかわいい花じゃよ。

小夜は、よく手折っては鬢に挿していたが、髪型によく似合い、奥床しさが増してくるようには見えたものじゃ。

ある日、大洋は、ひょっこり訪ねてきた小夜に出くわした。このときの大洋の驚きはひととおりでではなかつた。その美貌に驚くと同時に、髪にかざすイカリソウの色に仰天したのだつた。小夜も驚いたに違いない。男の驚きようと、白い花のイカリソウにじゃ。

二人はたちまち親しくなり、やがて愛し合う仲となつたのじゃ。

父親は許すはずはなかつた。村おさとしての面目にかけても、国造家に嫁がせねばならなかつた。小夜を厳しく叱責し、二度と会つてはならぬといひわたした。

小夜は深く悲しみ、食事も喉が通らなくなつた。痩せ細つた小夜は、見沼のほとりにきてわしに訴えた。

「竜神さまあ!お力を貸しておくんなさい!わたくしは、あの人なしでは生きていけません。父の気持ちを変えさせてください。竜神さまあ、お願いしまあす」

それはまるで血を吐くような声だつた。小夜は泣きながら手を合わせていたんじゃよ。わしはな、そのとき、何とかして助けてやりたいと思つたのじゃが、それにはある程度の時間が必要じゃつた。じゃが、どちらにも余分な時間は残っていなかつたんじゃな。

若者は、「筑紫博多の防人として、直ちに出発せよ」との国造の命を受けたのじゃ。そして小夜は、明日の命もわからぬ程の重体になつてしまつた。

次の朝、小夜は、ふらつく足を一歩ずつ踏みしめて、若者を見送りにきた。若者は支度を整えて小夜を待っていた。小夜は、手にしてきたイカリソウを若者の襟に挿した。

「この世では添えませんでした、あの世では幸せに暮らしましょう」

「お国のために働きながら、お父上のお許しを待つことにしますよ」

若者は携えてきた白いイカリソウを、小夜に渡して出発した。小夜は見送つた後、血を吐いてたおれた。白い花は真っ赤に染まつた。

次の年、小夜の塚にはイカリソウがびっしりと生えた。そして五月には見事な花を咲かせたが、それはみなピンクの色をしていた。あの白いイカリソウはどうなつたのか、わしにもとんとわからんのじゃ。(終わり)

(見沼文化の会発行「竜のひげ」第3号から転載)

見沼たんぼの仲間たち No. 13

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

見沼たんぼの花と実りと自然を青少年とともに学び楽しむ会

市民による見沼田圃の風致改善の取り組み

「新都心東エリア」の公有地を活用して

見沼たんぼの「新都心東エリア」は、さいたま新都心駅からすぐ近く、見沼たんぼの玄関口として展開する優れた立地条件をもっています。しかしながら開発圧力も高く、農的環境が後退し、一部には資材置き場や残土処分場なども広がっており、大規模緑地空間としての風致や環境が壊されつつあります。

私たちは、地域の皆さんや青少年とともに、見沼たんぼの公有地を活用して、この地域の環境後退をくい止め、新都心東エリアの風致と環境を大規模緑地空間の玄関口にふさわしい優れたものに改善したいと願い「見沼たんぼを楽しむ会」を昨年(2008年)2月に設立しました。

3カ所の畑で、青少年とともに、種を蒔き、食す

見沼たんぼについては、大規模緑地空間としての保全・活用・創造のため、平成10年から県と市とで「公有地化事業」が進められ、現在、その面積は26ヘクタールにも達しています。公有地の多くは、現在、県の農林公社により菜の花畑やコスモス畑などとして管理されていますが、県では、今後、公有地を地域に開かれたかたちで住民が活用することを期待しています。私たちは、新都心東エリアの3カ所の畑、面積合計2516㎡の管理委託契約を県と結び、地域の皆さんや青少年とともに、「花と実りと自然が楽しめる場所」として活用する活動を行っています。



ソバの花が咲く農園

「秋ソバ」づくりにチャレンジ

県との公有地管理委託契約が、5月下旬となってしまったため、それからの除草、耕耘、種まき、栽培となると、栽培時期の関係から「秋ソバ」程度しか選択できませんでした。しかしながら見沼たんぼで「ソバ」を栽培しているところが、ほとんど見あたらないうえ、会員にも栽培経験がなく、あちらこちらで学びながらのチャレンジ栽培でした。

結果的には、虫害の影響などもありましたが、30キロの玄ソバから22キロのソバ粉を収穫することができました。地域の皆さんや青少年とともに食べた「手打ち蕎麦」はおいしかったです。2009年度は、春ソバ、秋ソバに加えて、各種の芋類、野菜、花の栽培を、地域の皆さんや青少年とともに行う予定です。



中学生も手打ち体験



おいしかった手打ち蕎麦

「見沼たんぼの花と実りと自然を青少年とともに学び楽しむ会」 事務局長 北原典夫

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 三室地区定例探鳥会

日時：4月19日、5月17日、6月21日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分(雨天中止)
集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ/主催：日本野鳥の会埼玉支部
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

2 親子探鳥会

日時：6月13日(土曜日)9時00分～12時00分(雨天中止)
集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
内容：親子で見沼たんぼの野鳥を観察。カルガモの親子が見られるかも？雨天時は館内で鳥のお話など。
対象：小学生とその保護者/定員：20組(先着順)
講師：日本野鳥の会埼玉支部会員/参加費：無料
申し込み方法：6月号「市報さいたま」に掲載

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 企画展示「よみがえる昭和のくらし」～昭和30年代のくらしと文化～
日時：3月7日(土)～7月5日(日)
内容：昭和30年代を境に大きく変わり始めたくらしについて各種の資料で紹介します。(途中、展示替有り)

② 探鳥会

日時：4月5日(日)9時～12時(雨天中止)
集合・解散：民家園/内容：民家園周辺でバードウォッチング
講師：日本野鳥の会埼玉支部/対象：一般(小学生以下は保護者同伴)
定員：なし/参加費：中学生以下50円、高校生以上100円
持ち物：筆記用具、双眼鏡(持っている人のみ)

③ 春の自然観察会

日時：5月2日(土)9時30分から12時30分
会場および集合場所：民家園
内容：民家園周辺及び見沼たんぼの春の植物観察会
講師：齊藤良夫氏/対象：一般30人
申し込み：4月4日(土)より電話で民家園へ

④ 竹で作る玩具作り～こどもの日に向けて～

日時：5月4日(祝)13時30分～15時30分
会場：民家園/内容：5日のこどもの日に向け、竹を使った玩具を作る。
費用：無料/持ち物：筆記具(マジック、色鉛筆等)、ハサミ、のり、色紙や折り紙、小刀・のこぎり(持っていれば)
対象・定員：小学生以上20人(親子可)
申し込み：4月7日(火)から電話で民家園へ

⑤ 紙紐で編んだ一輪ざし作り～母の日に向けて～

日時：5月6日(祝)13時30分～15時30分
会場：民家園/内容：細い紙紐で花器を作る。
費用：500円(材料費)/持ち物：ハサミ、30cm定規
対象・定員：高校生以上20人
申し込み/4月10日(金)から電話で民家園へ

⑥ 探鳥会

日時：6月7日(日)9時～12時(雨天中止)
集合・解散：民家園/内容：民家園周辺でバードウォッチング
講師：日本野鳥の会埼玉支部/対象：一般(小学生以下は保護者同伴)
定員：なし/参加費：中学生以下50円、高校生以上100円
持ち物：筆記用具、双眼鏡(持っている人のみ)

⑦ 父の日講座「竹の靴べらをつくる」

日時：6月14日(日)9時30分～12時
会場：民家園/内容：父の日に贈る竹の靴べらを作る。
費用：500円(材料費)/持ち物：ハサミ、30cm定規
対象・定員：小学生以上20人(親子可)
申し込み：5月3日(祝)から電話で民家園へ

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
和紙工芸「ペン皿」	4月9日(木)	14時～15時	8名

和紙工芸「キャンディボックス」	4月16日(木)	14時～15時	8名
和紙工芸「熨斗袋」	4月17日(金)	14時～15時	8名
和紙工芸「お盆」	4月23日(木)	14時～15時	8名
和紙工芸「季節のメッセージカード」	4月24日(金)	14時～15時	8名
和紙工芸「菓子皿」	4月28日(火)	14時～15時	8名
「はじめての三味線」(全5回・2組)	5月17日(日)	13時と15時	各5名
「茶染めのハンカチーフ」	5月29日(金)	14時～16時	10名
韓紙工芸「剪紙花絵皿」	6月16日(火)	14時～15時	8名
韓紙工芸「六角形の蓋付箱」	6月17日(水)	14時～15時	8名
韓紙工芸「方形の小物入れ」	6月18日(木)	14時～15時	8名
韓紙工芸「筆箱」	6月19日(金)	14時～16時	8名

※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

③ 公開講座(定員なし/無料)

「野辺の花・春うらら」(童謡合唱)	4月10日(金)	14時～16時
邦楽鑑賞「春の調べ」	4月19日(日)	14時～16時
「八十八夜の新茶試飲会」	5月2日(土)	10時～15時
新論語教室①「孔子と道元」	5月14日(木)	10時～11時
「夏も近づくと八十八夜」(童謡合唱)	5月15日(金)	14時～16時
特別講演「子育て親の役割」	5月20日(水)	10時半～12時
新茶漬載!笑い満載!くらしっく寄席	5月24日(日)	13時～16時
特別講演「高齢者としてどう生きるか」	5月27日(水)	10時半～12時
新論語教室②「孟子」	5月28日(木)	10時～11時
お茶で和紙を染めよう!	5月30日(土)	14時～16時
新論語教室③「ゲーテ」	6月11日(木)	10時～11時
「深緑に声弾ませて」(童謡合唱)	6月12日(金)	14時～16時
新論語教室④「ルター」	6月25日(木)	10時～11時

※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

2 企画展示

「牛一揺られて牽かれて守られて」	4月1日(水)～5月6日(水)
「うるし」	5月9日(土)～6月7日(日)
「紙の造形」	6月9日(火)～7月12日(日)

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① アグリフェスタ'09

期日：平成21年5月4日(祝)～5月5日(祝)10時～15時
会場：緑の広場(農業者トレーニングセンター)/対象：一般市民の方
内容：農産物の即売、山野草の展示、園芸相談など

② サクラソウ園芸品種展示

日時：平成21年4月16日(水)～30日(水)9時から16時
会場：園芸植物園/対象：一般市民の方/内容：サクラソウの品種展示

③ 羊の毛刈り実演と羊毛作品作り

日時：平成21年4月19日(日)11時～12時30分
会場：子供動物園(大崎公園)
対象：羊毛作品作りは中学生以下の子供100人(当日先着順)
内容：原毛を加工し、マスコットや記念カードを作る。/費用：無料

大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

水墨画・書道の展示	4月1日(水)～4月12日(日)
第24回むさし野えびね展示即売	4月17日(金)～4月19日(日)
春の山野草展示即売	4月17日(金)～4月19日(日)
写真展「皆で歩いた中山道」	4月21日(火)～4月26日(日)
彩の花俱樂部 押花作品展	4月27日(月)～5月10日(日)
第4回 陶遊会作品展	4月27日(月)～5月10日(日)
水彩画展示	5月11日(月)～5月31日(日)
関口弘呂子のうつし絵展3(展示即売)	5月19日(火)～5月31日(日)
ペン画展	6月2日(火)～6月14日(日)
水彩画展「残したい見沼風景 PART II」	6月8日(月)～6月14日(日)
うちょうらんの展示即売	6月19日(金)～6月21日(日)
厚年写真くらぶ展	6月16日(火)～6月21日(日)
折り紙展「季節の彩り」	6月22日(月)～6月28日(日)

※大宮公園では、3月下旬～4月初旬、自由広場を中心に約1200本のサクラが咲き誇り、期間中は夜間(19時～21時)ライトアップも楽しめます。また、4月中旬頃には、大宮公園水泳競技場を開放し、ウコン桜の公開も予定しています。

見沼たんぼくらぶのイベント案内

平成 21 年度 見沼たんぼくらぶ総会

日 時：4月25日（土）10時～12時
会 場：さいたま市立大宮図書館2F 第1～第2会議室
受 付：9時30分から受付開始
第1部 総会 10時～10時40分
第2部 講演会 11時～12時
『朝顔は見た埼玉の大気汚染』
講師：三輪誠農学博士
(埼玉県環境科学国際センター)
※当日、希望者に朝顔の種と肥料を配布し、大気汚染
簡易調査に協力していただきます。
※講演会には会員外の方もお誘いください。

第38回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：5月16日（土）9時～12時30分
集 合 地：JR 武蔵野線東浦和駅前広場
解 散 地：さいたま市立病院バス停周辺
コ ー ス：見沼代用水西縁⇒浦和くらしの博物館民家園
⇒見沼代用水東縁⇒太子堂⇒国昌寺⇒緑のト
ラスト保全第1号地⇒総持院
申 込 み：当日、東浦和駅前広場で8時30分から受付
参 加 費：¥500（会員及び中学生以下は無料）
問 合 せ：TEL（048）683-1764・小野

第37回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：4月25日（土）13時～16時
集 合 地：大宮図書館前（大宮駅東口徒歩12分・氷川
参道大鳥居前）
解 散 地：東武野田線大和田駅前
コ ー ス：氷川神社⇒大宮公園⇒盆栽村⇒新見家の長屋
門⇒見沼代用水西縁⇒神明社⇒見沼公園⇒防
風林⇒芝川⇒大和田2丁目緑地⇒大和田駅
申 込 み：当日、大宮図書館前で12時30分から受付
参 加 費：¥500（会員及び中学生以下は無料）
問 合 せ：TEL（048）683-1764・小野
※上記、総会終了後に実施します。

野崎 初太郎会長逝去のお知らせ

去る2月4日、見沼たんぼくらぶの野崎初太郎会長が急逝されました。野崎さんは、平成11年11月21日、見沼たんぼくらぶ設立以来会長を務め、当会の多様な事業推進と見沼たんぼ保全に大きく貢献されました。ここに偉業に深謝申し上げると共に、心から冥福をお祈りします。

**「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしま
しょう！事務局から入会案内をお送りします！**

〔編集・発行〕見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/